

みなさんお元気ですか。

2017年5月の道場での様子をお便りします。ご覧くださいませ。



5月26, 27, 28日、米国、ネバタ州のレイクタホ市で開催された第28回 TAA (Takemusu Aiki Association) 岩間スタイル メモリアルデー ウィークエンド 合気道合宿に参加した。TAA (武産合気道協会) は、斎藤守弘師範を師事した弟子たちの団体である。会長は Bill Witt 師範 (8段)。今回の合宿での先生方を記す。Hans Goto 先生 (7段)、Hoa Newens 先生 (7段)、Kim Peuser 先生 (7段)、Bernice Tom 先生 (7段)、Wolfgang Baumgartner 先生 (6段)、Aviv Goldsmith 先生 (6段)、Douglas Dale 先生 (5段)、Ginny Breeland 先生 (5段)、Jason Yim 先生 (5段)、Bruce Mendenhall 先生 (4段)、Daniel Brasse 先生 (4段)。この6段以上の先生方とは、三十数年ぶりの再会となった。



私は、1970年代の後半、学生だったが、カリフォルニア州オークランド市にある合気道道場にも通っていた。その当時の先輩や同輩が今は、指導者となっている。今回の合宿で、合気道が取り持つ縁で旧友との深い絆を実感した。

今回の合宿は、アメリカのメモリアルデーウィークエンドの三連休を利用して行われた。初日 (金曜日) は、地元レイクタホにある道場長による講習だった。二日目は、師範や六段以上の高段者による4クラスの講習があった。また、4段の昇段審査や6段、7段、8段指導者による演武も行われた。三日目は、午前中だけの講習で、6人の指導者により体術と武器技が6つのクラスに分かれて行われた。私もニカラグアでは、斎藤先生に習った基本技を指導しているが、今回の講習で今までの技を再度確認できて良かった。今回の講習では同じ岩間スタイルと言われている技を多数の指導者が教示したが、それぞれの技に各指導者の個性がでていて、興味深かった。特に冗談を交えて指導する先生の授業は、非常に参考になった。



今回の合宿で、 Hoa Newens 先生のデービス道場から二人の4段昇段審査が行われた。受審者は、体術の基本技から組太刀、組杖、太刀取り、杖取り、短刀取りなどの武器技まで披露した。それぞれの技は、正確で気に入っていたように感じた。日本人のレベル以上だと思った。1987年、私はカルフォルニア州サンディゴで合気道を指導していた。その時に、当時の道場の数人とこの合宿に参加したことがある。その時の指導者は斎藤守弘師範一人だった。今では日本人の師範を招待しなくても立派に講習会、昇段審査会ができるようになった。私が参加した当時は、サンフランシスコ湾周辺の合気道は3団体だけだった。それが今では6以上の道場が参加するようになった。



そして、今回の合宿に参加して、斎藤師範の想いがこの参加者に伝わり、この団体によってその想いは育てられているように思った。現在の指導者は、若い時に全員岩間に行って、内弟子、または外弟子の経験がある。斎藤師範はいつも日本人の弟子におっしゃっていた。いずれは、日本人が外国人から合気道を習うことになる。確かに三十数年前、私も岩間で内弟子だったころ、日本人の内弟子は私だけだった。朝稽古はほぼ外国人だった。日本人は、夜稽古か週末の稽古で人数は少なかった。その当時の外国人は朝、夜欠かさず稽古していた。特に、斎藤師範の武器技は、日本人よりもここにいる指導員のほうがより修得しているようにも思える。



今回の合宿所は、地元の高校の体育館を借りて行われた。サンフランシスコ湾周辺からこのレイクタホまで車で、5時間くらいで来れたと思う。参加者は、三連休をリゾート地で合気道をするためにやって来ている。合気道は本当にカルフォルニアの人々たちのものになってしまったような気がする。日本人が、西洋のスポーツ、野球やサッカーなどを異文化のものとは思わなくなったように。また、生徒のなかには、本当に日本の文化や武士道精神に憧れている人たちもいる。ニカラグアの当道場の生徒は、時々、私に「先生のこどもは、合気道を習っていますか。」と質問する。私は、「いいえ」と答えるが、すこし寂しい気持ちになることもある。私の子供たちは、みんな野球やバスケットをやって育ってきた。日本人は、仕事優先で、そして西洋のスポーツに流されてしまっている。私も子供時代は、野球少年だった。海外経験をして、初めて日本文化の良さをしみじみ感じた。



左写真は、オークランドインスティテュート（オークランド修練）道場の現在の生徒たちだ。私が約37年前に通っていた道場だ。写真の二人、Kimさん、Deboraさんはその当時の先輩だ。あとの生徒は新しいけど、みんな私を道場のメンバーとして心よく対応してくれる。今回も合宿が終って、リノ市のホテルに戻る際も生徒が車で送ってくれた。この生徒にとっては、帰宅方向とは逆で、さらに私のホテルまで30分以上かかるのに、送ってくれた。この生徒は、10月にまた岩間道場に行くと言っていた。なぜ彼らは、繰り返し来るのだろうか。それは、大先生の修行した場であることは当然だけど、岩間町の人たちが外国からきた合気道人たちを本当に優しく接してくれるからだと思う。岩間町の人たちは、言葉が通じないことは分かっているけど親切に心温まる対応をしてくれている。岩間駅でも、スーパーでも、飲食店でもどこでも。からかったり差別するひとはいない。岩間は小さな田舎町だけど、合気道文化がこの町の人たちによって守られ育っているような気がする。

